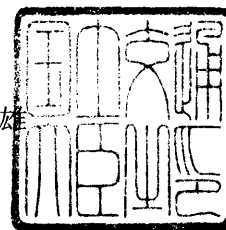


# 認 定 書

国住指第 597 号  
平成 18 年 7 月 6 日

因幡電機産業株式会社  
代表取締役社長 守谷 承弘 様

国土交通大臣 北側 一雄



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項(同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。)の規定に基づき、同法施行令第 129 条の 2 の 5 第 1 項第七号ハ[防火区画貫通部 1 時間遮炎性能]の規定に適合するものであることを認める。

## 記

1. 認定番号

PS060FL-0316

2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称

ケーブル／鋼製スリーブ・ポリオレフィン系不織布付熱膨張性ロックウール・ロックウール充てん／床耐火構造／貫通部分（中空床を除く）

3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容

別添のとおり

(注意) この認定書は、大切に保存しておいてください。

(別 添)

1. 構造名

ケーブル／鋼製スリーブ・ポリオレフィン系不織布付熱膨張性ロックウール・ロックウール充てん／  
床耐火構造／貫通部分（中空床を除く）

2. 寸法および形状等

(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造
開口部	(形状) 矩形 (面積) 0.6 m <sup>2</sup> 以下 (1200 以下×500 以下)
占積率 (断面積)	20.83%以下 (0.123592 m <sup>2</sup> 以下)
貫通する床の構造等	コンクリート ・床厚 100 以上

3. 材料構成  
1) 主構成材料

(寸法単位：mm)

項 目		申 請 構 造		
電線管なし	ケーブル	総発熱量	5.450,553kJ/m以下	
		総導体断面積	0.018195m <sup>2</sup> 以下	
		規格	光ファイバケーブル以外のケーブルについては、次の規格のうち、いずれかに該当すること JIS C 3307, 3312, 3317, 3342, 3401, 3501, 3502, 3605, 3606, 3605 準拠 JCS 第 224 号, 第 271 号 A, 第 364 号 A, 第 376 号 A, 第 381 号, 第 396 号, 第 396 号 A, 第 402 号, 第 416 号, 第 418 号 B, 第 419 号 A, 第 420 号, 第 421 号, 第 422 号, 第 423 号, 第 426 号, 第 427 号, 第 4426 号, 第 4427 号, 第 4396 号, 第 5420 号, 第 5421 号, 第 5422 号, 第 5423 号, 第 4419 号 準拠, 第 4364 号 準拠, 第 5381 号 準拠 JCS C 第 68 号, 第 70 号, 第 71 号, 第 72 号, 第 74 号, 第 75 号, 第 76 号, 第 9074 号, 第 9075 号, 第 9076 号, 第 3271 号 準拠, 第 9072 号 準拠 TIA/EIA 568A, TIA/EIA 568A 準拠 平成 9 年消防庁告示第 10 号, 第 11 号	
		外径	光ファイバケーブル以外	より合わせ外径：85 以下
			光ファイバケーブル	より合わせ外径：47 以下
		導体断面積	光ファイバケーブル以外	325mm <sup>2</sup> /本以下
			光ファイバケーブル	125mm <sup>2</sup> /本以下
		本数	総発熱量を各ケーブルの発熱量で除した数以下かつ総導体断面積を各ケーブルの導体断面積で除した数以下	
		導体種類	(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1) 銅 (2) アルミニウム (3) ガラス繊維(光ファイバケーブル)	
		絶縁体	(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1) ポリエチレン系樹脂 (2) 塩化ビニル系樹脂 (3) ゴム系樹脂	
		シース	(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1) ポリエチレン系樹脂 (2) 塩化ビニル系樹脂 (3) ゴム系樹脂	

項 目		申 請 構 造		
電線管あり	電線管	規格	JIS C 8411	
		外径	42.0 以下	
		厚さ	2.0 以下	
		本数	各ケーブルの発熱量を除いた発熱量を各電線管の発熱量で除した数以下かつケーブルラックの1ラック内に1段以下	
		材質	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) ポリエチレン系樹脂 (2) ポリ塩化ビニル系樹脂	
	電線管内ケーブル	規格	光ファイバケーブル以外のケーブルについては、次の規格のうち、いずれかに該当すること JIS C 3307, 3312, 3317, 3342, 3401, 3501, 3502, 3605, 3606, 3605 準拠 JCS 第224号, 第271号A, 第364号A, 第376号A, 第381号, 第396号, 第396号A, 第402号, 第416号, 第418号B, 第419号A, 第420号, 第421号, 第422号, 第423号, 第426号, 第427号, 第4426号, 第4427号, 第4396号, 第5420号, 第5421号, 第5422号, 第5423号, 第4419号準拠, 第4364号準拠, 第5381号準拠 JCS C 第68号, 第70号, 第71号, 第72号, 第74号, 第75号, 第76号, 第9074号, 第9075号, 第9076号, 第3271号準拠, 第9072号準拠 TIA/EIA 568A, TIA/EIA 568A 準拠 平成9年消防庁告示第10号, 第11号	
		外径	光ファイバケーブル以外	より合わせ外径：30 以下
			光ファイバケーブル	より合わせ外径：30 以下
		导体断面積	光ファイバケーブル以外	38mm <sup>2</sup> /本以下
			光ファイバケーブル	38mm <sup>2</sup> /本以下
本数		総発熱量を各ケーブルの発熱量で除した数以下かつ総导体断面積を各ケーブルの导体断面積で除した数以下		
导体種類		(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1) 銅 (2) アルミニウム (3) ガラス繊維(光ファイバケーブル)		
絶縁体	(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1) ポリエチレン系樹脂 (2) 塩化ビニル系樹脂 (3) ゴム系樹脂			
シース	(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1) ポリエチレン系樹脂 (2) 塩化ビニル系樹脂 (3) ゴム系樹脂			

(寸法単位：mm)

項 目		申 請 構 造		
防火措置材料	ポリオレフィン系 不織布付熱膨張性 ロックウール・ロッ クウール (以下、耐熱パック)	熱膨張性 充てん材	材質	熱膨張性ロックウール
			組成(質量%)	
			厚さ	3 以上
			幅	75 以上
			密度	42g/m 以上
		長さ	1000 以下	
		耐熱性 充てん材	材質	ロックウール
			厚さ	19 以上
			幅	75 以上
			密度	60kg/m <sup>3</sup> 以上
	梱包紙	材質	(1)～(4)のうち、いずれか一仕様とする (1) ポリオレフィン系不織布 (2) ポリオレフィン系樹脂 (3) ポリアミド系樹脂 (4) ポリ塩化ビニル系樹脂	
		厚さ	0.55 以下	
	耐熱パッ クの位置	(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1) 鋼製スリーブ上面 (2) 鋼製スリーブ下面 (3) 鋼製スリーブ中間部		
	ポリオレフィン系 不織布付熱膨張性 ロックウール (以下、補助パット)	熱膨張性 充てん材	材質	熱膨張性ロックウール
			組成(質量%)	
厚さ			3 以上	
幅			75 以上	
密度			42g/m 以上	
長さ		1000 以下		
梱包紙		材質	(1)～(4)のうち、いずれか一仕様とする (1) ポリオレフィン系不織布 (2) ポリオレフィン系樹脂 (3) ポリアミド系樹脂 (4) ポリ塩化ビニル系樹脂	
		厚さ	0.55 以下	

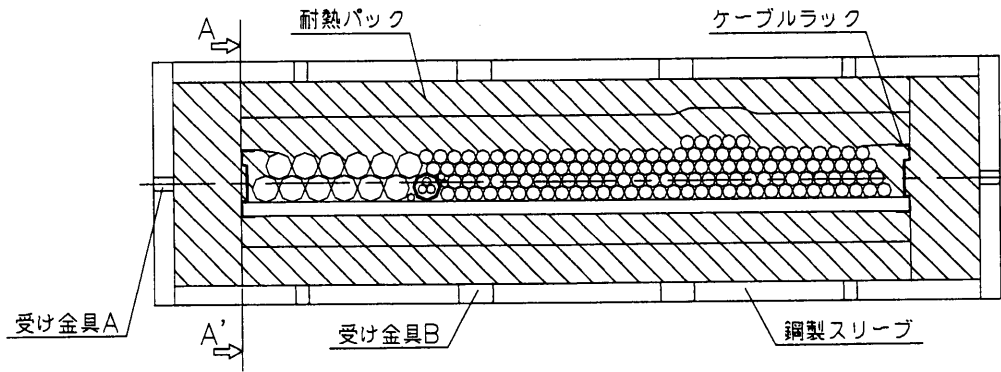
(寸法単位：mm)

項 目		申 請 構 造		
防 火 措 置 材 料	床用ネット	材質	(1)～(4)のうち、いずれか一仕様とする (1) ポリオレフィン系不織布 (2) ポリオレフィン系樹脂 (3) ポリアミド系樹脂 (4) ポリ塩化ビニル系樹脂	
		長さ	1200 以下	
		幅	500 以下	
		密度	130 g/m <sup>2</sup> 以下	
	ケーブルラック	材質	(1)～(9)のうち、いずれか一仕様とする (1) 溶融亜鉛めっき鋼板 ・規格 JIS G 3302 (2) 溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 ・規格 JIS G 3317 (3) クロムめっき鋼板 ・規格 JIS G 7122 (4) ステンレス鋼板 ・規格 JIS G 4305 (5) 熱間圧延軟鋼板 ・規格 JIS G 3131 (6) 冷間圧延鋼板 ・規格 JIS G 3141 (7) 溶融亜鉛めっき鋼板にメラミン系樹脂焼付塗装を施したもの (8) 熱間圧延鋼板に亜鉛めっきを施したもの (9) 冷間圧延鋼板に亜鉛めっきを施したもの	
			厚さ	1.2 以上
			幅	1000 以下

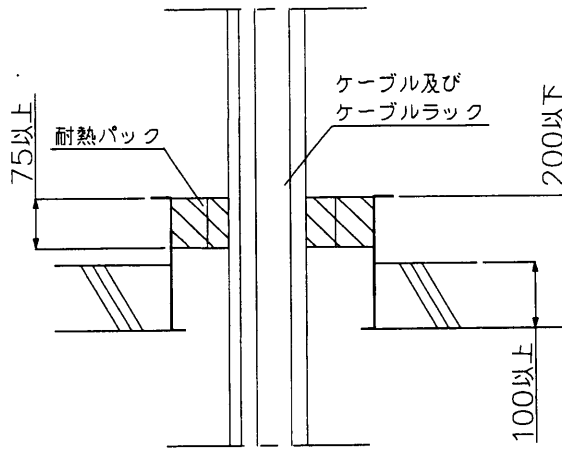
項 目		申 請 構 造	
防火措置材料	鋼製スリーブ	材質	(1)～(8)のうち、いずれか一仕様とする (1) 溶融亜鉛めっき鋼板 ・規格 JIS G 3302 (2) 溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 ・規格 JIS G 3317 (3) クロムめっき鋼板 ・規格 JIS G 7122 (4) ステンレス鋼板 ・規格 SUS410, SUS420J1, SUS430 (5) 熱間圧延軟鋼板 ・規格 JIS G 3131 (6) 冷間圧延鋼板 ・規格 JIS G 3141 (7) 熱間圧延鋼板に亜鉛めっきを施したもの (8) 冷間圧延鋼板に亜鉛めっきを施したもの
		厚さ	1.6 以上
		幅	500 以下
		高さ	200 以下
		長さ	1200 以下
	受け金具A	材質	(1)～(8)のうち、いずれか一仕様とする (1) 溶融亜鉛めっき鋼板 ・規格 JIS G 3302 (2) 溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 ・規格 JIS G 3317 (3) クロムめっき鋼板 ・規格 JIS G 7122 (4) ステンレス鋼板 ・規格 JIS G 4305 (5) 熱間圧延軟鋼板 ・規格 JIS G 3131 (6) 冷間圧延鋼板 ・規格 JIS G 3141 (7) 熱間圧延鋼板に亜鉛めっきを施したもの (8) 冷間圧延鋼板に亜鉛めっきを施したもの
		厚さ	1.0 以上
	受け金具B	材質	(1)～(8)のうち、いずれか一仕様とする (1) 溶融亜鉛めっき鋼板 ・規格 JIS G 3302 (2) 溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 ・規格 JIS G 3317 (3) クロムめっき鋼板 ・規格 JIS G 7122 (4) ステンレス鋼板 ・規格 JIS G 4305 (5) 熱間圧延軟鋼板 ・規格 JIS G 3131 (6) 冷間圧延鋼板 ・規格 JIS G 3141 (7) 熱間圧延鋼板に亜鉛めっきを施したもの (8) 冷間圧延鋼板に亜鉛めっきを施したもの
		厚さ	1.0 以上
		間隔	310 以下

4. 構造説明図

(寸法単位：mm)

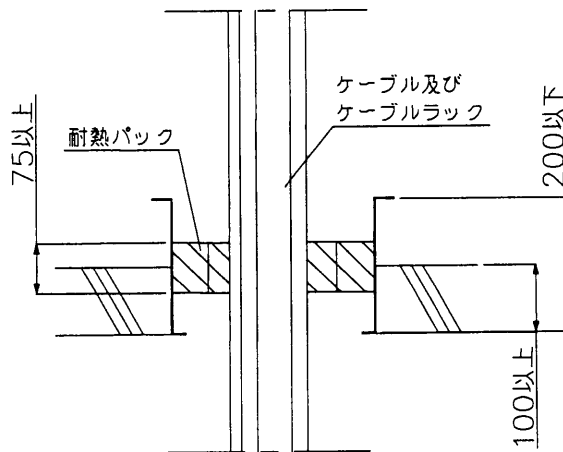


- 耐熱パックが鋼製スリーブの上面にくる場合



A-A' 断面図

- 耐熱パックが鋼製スリーブの中間部にくる場合



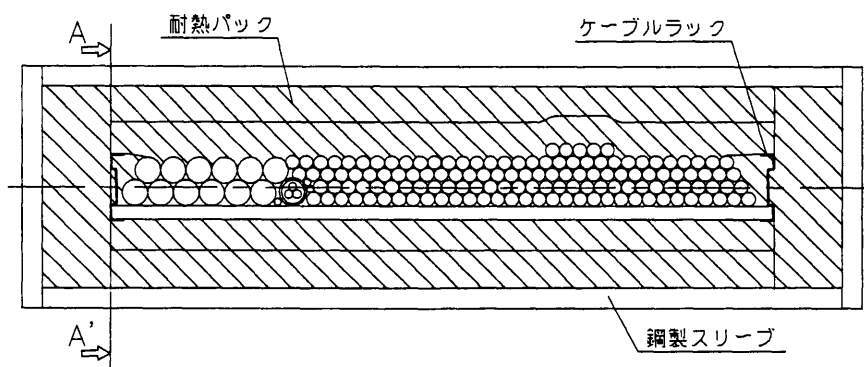
A-A' 断面図

注) 寸法および材料構成は2 および3 のとおり

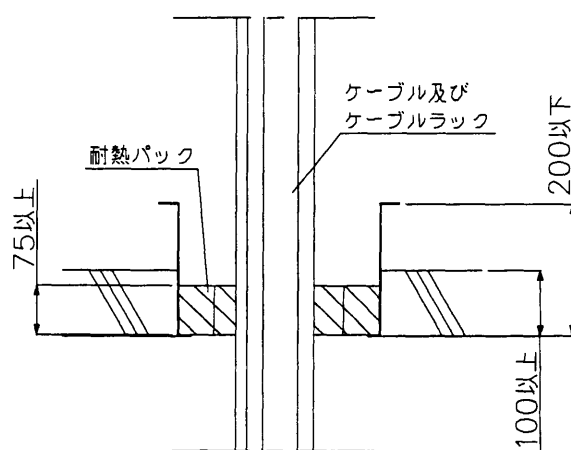
(別添-7)



(寸法単位：mm)



- 耐熱パックが鋼製スリーブの下面にくる場合

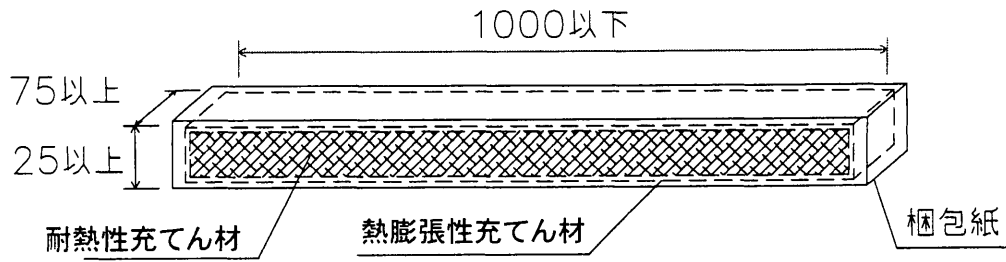


A-A' 断面図

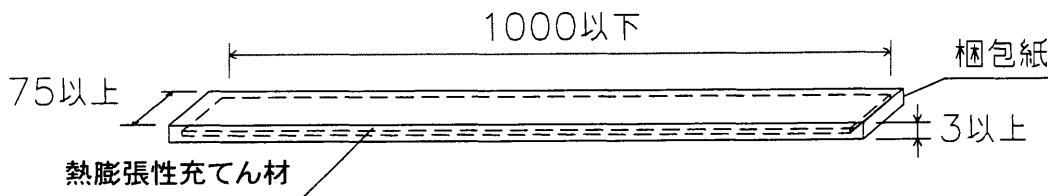
注) 寸法および材料構成は 2 および 3 のとおり

〈耐熱パックの詳細構造図〉

(寸法単位：mm)

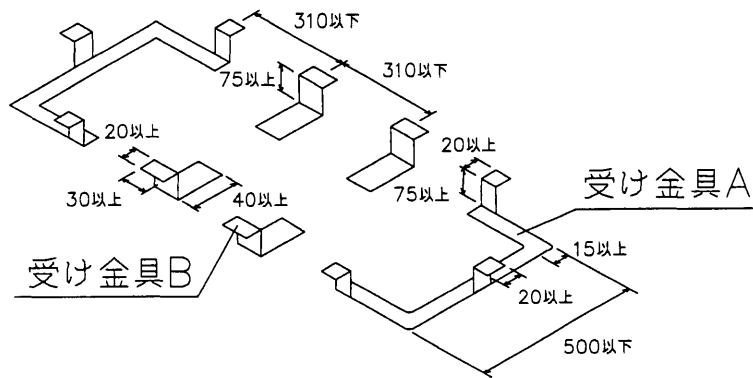


〈補助パットの詳細構造図〉

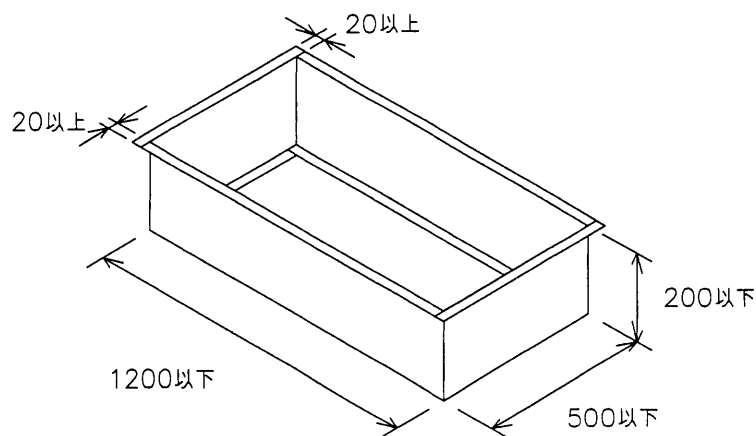


※) 補助パットは隙間にあわせて、必要長さにカットして使用する。

〈受け金具A, Bの詳細構造図〉



〈鋼製スリーブの詳細構造図〉



注) 寸法および材料構成は2 および3 のとおり

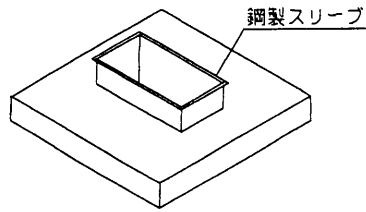
## 5. 施工方法等

施工図（手順）を以下に示す。

《 耐熱パックを鋼製スリーブの上面及び中間部に施工する場合》

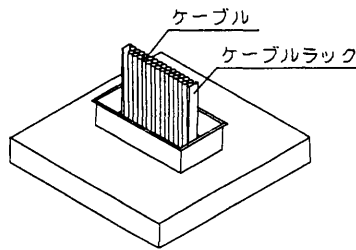
### ① 鋼製スリーブの設置

床スラブに、鋼製スリーブを打設する。



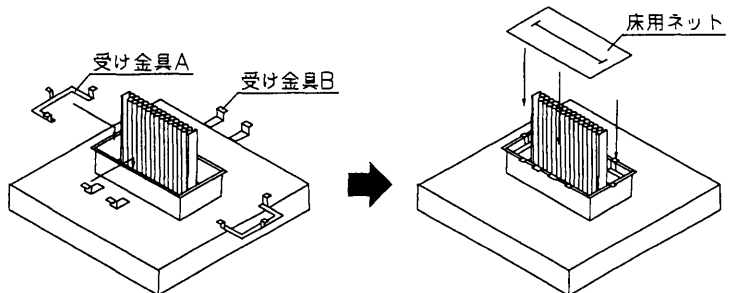
### ② ケーブルラックの設置及びケーブルの配線

ケーブルラックを設置した後、ケーブルラックにケーブルを配線（通線）する。



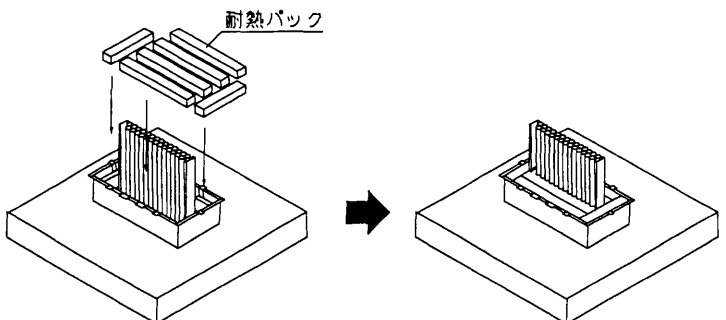
### ③ 金具及び床用ネットの挿入

耐熱パック脱落防止用金具を鋼製スリーブ内に挿入する。金具は金具のつばを鋼製スリーブのフランジ面に固定する。  
床用ネットに切れ目をいれたのち、脱落防止用金具の上に敷く。



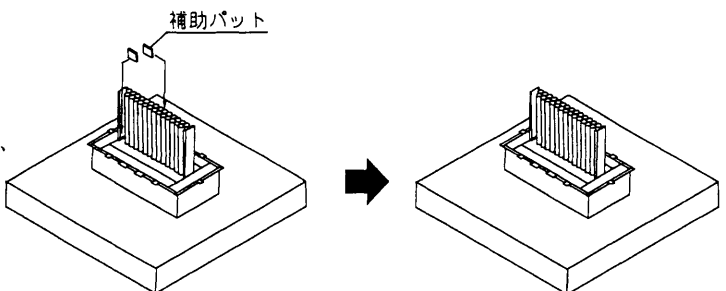
### ④ 耐熱パックの充てん

耐熱パックを隙間のないように押圧してなじませながらケーブル周囲及び開口部に充てんする



### ⑤ 小さい隙間の充てん

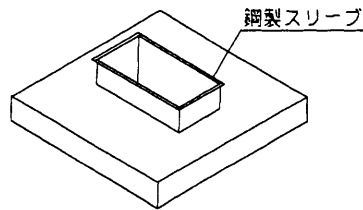
耐熱パックが隙間なく充てんされていることを確認し、小さい隙間が認められる場合には、補助パットを挿入し、仕上げる。



《 耐熱パックを鋼製スリーブの下面に施工する場合》

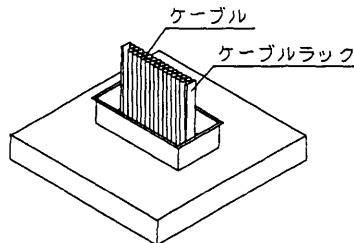
① 鋼製スリーブの設置

床スラブに、鋼製スリーブを打設する。



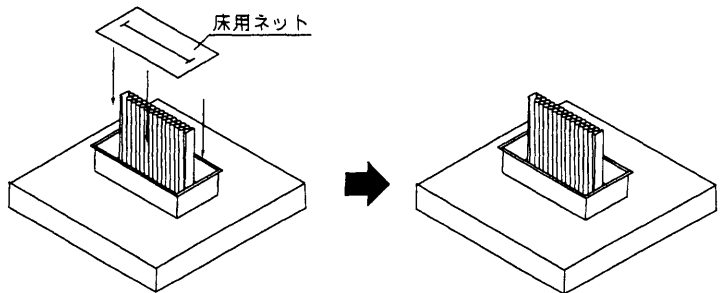
② ケーブルラックの設置及びケーブルの配線

ケーブルラックを設置した後、ケーブルラックにケーブルを配線（通線）する。



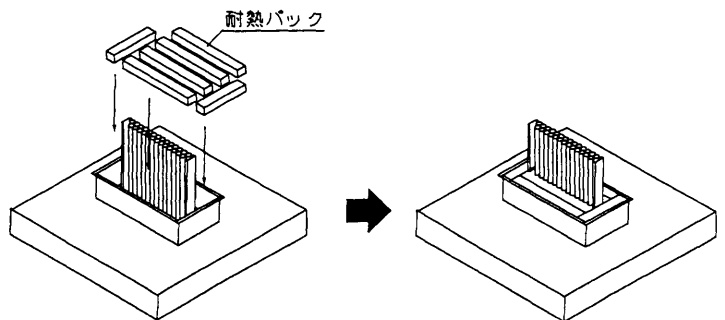
③ 床用ネットの挿入

床用ネットに切れ目をいれたのち、脱落防止用金具の上に敷く。



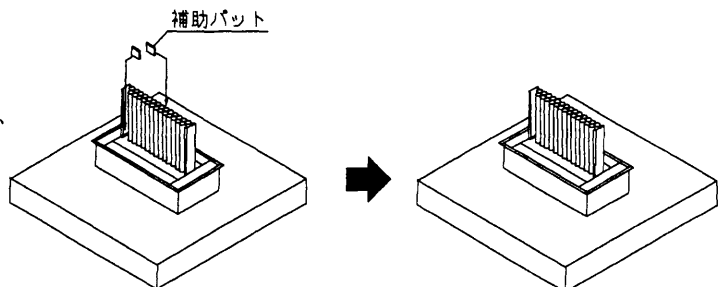
④ 耐熱パックの充てん

耐熱パックを隙間のないように押圧してなじませながらケーブル周囲及び開口部内に充てんする



⑤ 小さい隙間の充てん

耐熱パックが隙間なく充てんされていることを確認し、小さい隙間が認められる場合には、補助パットを挿入し、仕上げる。



6. 注意事項

本構造に使用する耐熱パック及び補助パットについては、耐久性に留意し、所定の耐火上の性能が維持されるよう適切な処理を行う必要がある。